

令和6年度 岩手県立千厩高等学校 卒業式 校長 式辞  
式 辞

今年は例年に比べて、岩手らしい寒い日が多い冬でしたが、春の息吹は西から東、そして北へと着実に近づいています。春の訪れが感じられる今日の佳き日に、加藤PTA会長、畠山同窓会長をはじめ、たくさんの御来賓の方々の御列席を賜り、令和六年度岩手県立千厩高等学校の卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであり、心より厚く御礼申し上げます。

卒業生の保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございませう。生まれたときの泣き顔。黄色い帽子をかぶり、体より大きいランドセルを背負った背中。大きめの制服に袖を通した中学1年のはにかんだ笑顔。千厩高校入学式では我が子の成長に驚き、そして喜んだことでしょう。すべてが、走馬灯のように駆け巡り、万感の思いがこみ上げ、胸が熱くなっていることと拝察いたします。皆様の深い愛情に支えられ、卒業生はこの日を迎えることができました。心より敬意を表し、御礼申し上げます。

私が今日(きょう)、はなむけの言葉として卒業生のみなさんに贈る言葉は、「立ち止まってイマジン、想像してみよう」です。

心の中で絵を描くように思い浮かべることはとても大切で、想像する気持ちは、相手を思いやる心を育て、自分の心を優しくし、勇気と希望を与えてくれます。さて、私たちは、立ち止まって、何を想像したらいいのでしょうか。

それは、「人の気持ち」です。

今、静かに、あなたの過去を振り返ってみることにします。あなたは、誰に優しくされましたか。誰に大切にされましたか。誰に叱られ、誰に励まされましたか。これまで、あなたをたくさんの笑顔で包みながら、守ってくれた人は誰ですか。その人たちのその時の気持ちを想像してみてください。そして、自分のしたいことは我慢して、あなたに目一杯の愛を注いだその人たちは、どんな気持ちで今日(きょう)を迎えているのでしょうか。

未来圏から吹いてくる風を感じながら、前途洋々の自分の未来も想像してみてください。30歳の自分、45歳の自分、60歳の自分。その時、自分自身の気持ちは何に喜び、何に幸せを感じているのでしょうか。少し苦しい時もあるかも知れません。未来においては、自分自身の気持ちを想像してみましよう。

友だちが、何だか元気が無い、どうしてかな。お母さんがちょっと疲れているみたい、どうしてかな。先生が涙を流している、一体何があったんだろう。いつも優しい人が今日は乱暴な言葉を使った、どうしたんだろう。お父さんに叱られた、自分に何を伝えたかったんだろう。車イスに乗った人、白い杖で歩いている人、無事に進めるのかな。おばあちゃんが一人でキョロキョロしてる、道に迷っているのかな。特別支援学級の友だちは、何に困っている

のだろう。ウクライナやガザ地区の子どもたちはどれほどの悲しみと飢餓に喘いでいるのだろう。「世界は広い」自分たちの知らない世界に存在する人々にも思いを馳せてもみましよう。

「語らざれば憂い無きに似たり」という言葉を、以前、校長講話で紹介しました。話さなければ、泣いていなければ、笑ってさえいれば、人は悲しみがまったく無いように見えます。でも、人は本当の苦しみや悲しみは語りません。東日本大震災で我が子を亡くした方、能登半島地震で家が倒壊した方、凶悪犯や交通事故で尊い家族の命が奪われた方、病で父や母を亡くした方。そして、大船渡山林火災で家を失った方…。一瞬にして幸せな日常を失われた方々の苦しみや悲しみを正確に想像するのは到底無理かもしれませんが、私たちは想像しなければなりません。

人の気持ちを想像してみる。人の心の痛みをを考えてみる。あなたが幸せな人生を送るためには、耳に聞こえる人の言葉や目に見える態度、醸し出す雰囲気だけで判断するのは無く、その人の本当の気持ちや考え、背景を想像すること。それは、視点を変える、自分自身の価値感を勇気を持って変えてみる、距離をおいて視野を広げてみる、という言い方もできます。相手を批判したり、変えようとするのではなく、自分自身が変わる。それが世の中で幸せに生きるための第一歩だという気がします。

冬休み前に皆さんに伝えた「あなたがあなたらしくあるためには不断の努力をしなければならぬ」というのはそういうことです。不断の努力とは、勉強し本を読み、自然と親しみ、たくさんの未知の人々と交わりつつ、想像力を働かせる日常です。その積み重ねが人を大きく成長させます。

今日私から卒業生に贈る言葉は、「立ち止まってイマジン、想像してみよう」です。胸に刻んで過ごしてみてください。きっと何かが変わり始めます。

最高の学び舎、愛すべき千厩高校を旅立つ卒業生諸君。卒業本当におめでとう。  
私はちょっぴり、いやとても淋しく とても嬉しいです。

室根富士を望むわれらの山仰台は、皆さんを見守り続けます。

卒業生の前途に、幸多からんことを祈念して、式辞とします。

令和七年三月一日

岩手県立千厩高等学校  
校長 熊谷 道仁